

将来の自分に向けての基礎を 徹底的に行う

立志舎高等学校
橋本 佳彦 先生



立 志舎高等学校は1999年（平成11年）に設立された単位制普通科の高等学校です。平日（通学）コースと土曜（通信）コースがあり、平日コースには将来の進路に合わせて特別進学クラス・進学クラス・普通クラスの3つのクラスがあります。本校の学習方法の一番の特徴は『ゼミ学習』です。ゼミ学習はクラスを6～9人のグループに分け、生徒同士が互いに教え合うことで、生徒の学習意欲を引き出し、学習効果を高めることができる学習方法です。現在多くの学校で導入されるようになったアクティブラーニングの一つであるこの学習方法を、本校では設立当初から取り入れてきました。校則は比較的自由で頭髪は授業に支障がない限り制限がなく、生徒一人ひとりの個性が光っています。卒業後の進路先は大学、専門学校、就職などさまざまです。



本 校では、国語演習の授業の一環として日本語検定を受検していますが、学習を重ねていくうちに日本語の運用力や語彙力が向上していく様子が見てとれます。1年生から3年生まで全学年が毎年受検していますが、検定を受検するごとに言葉遣いの変化が見られ、友達同士の会話の中で、難しい単語が出てきたり、目上の人に使う敬語がスラスラと出てきたりすることがあり、生徒の成長に驚かされます。ゼミ学習を行っているので、わからないところは生徒同士で確認して、模範解答を見るよりも早く答えがわかる場合もあります。検定前の対策としては過去問題を何回も解いたり、補習授業で知識の定着をはかっています。各クラスの担任も問題演習で成績の良かった生徒を発表するなど、工夫をして生徒の意欲を高めています。授業最初の頃は、生徒はこれくらいできるよとか、余裕が感じられますが、検定の日程が近づくにつれ徐々に焦り出したり、過去に出題された問題を解いてみて、合格点を越えた超えないと一喜一憂しております。

現 在はSNSやスマートフォンアプリ等コミュニケーションツールが多様であり、言葉一つで人を喜ばせたり、時には傷つけてしまう場合があります。人と人が向かい合ったコミュニケーションが少なくなった気がします。少ない場面だからこそお互いが適切な日本語が使えるかどうか、そんな能力を高めてくれるのが日本語検定ではないでしょうか。資格取得として目標設定をし、可否の結果で自分自身の力をはかることも大切ですが、今、コミュニケーションのあり方が、迅速に変わりつつある時代にどう対応するかが問われています。その土台として、日本語の正しい運用力、語彙力を生徒たちに身に付けさせることはとても重要なことだと思います。生徒たちが5年後、10年後の将来に、高校の時の勉強が身になったと感じてくれれば日本語検定を受検することの意義は大きいと思います。そんな期待を込めて毎年日本語検定の学習に取り組んでおります。

